


性 隷 少 女

いいなり肉便器編

Faker

18





会員制の高級クラブ
レイの役目は猫のような
格好で店内を彷徨くこと

あれは新入りか？
色白で実に美しい

客の一人がレイに目を付け
近寄ってくる



新入りにしては
随分と尻尾が太い……

男はレイの尻尾が突き刺された尻や
大きく割り開かれた性器に
顔を近づけまじまじと覗き込み
吟味していく

特別な者しか入れないクラブだが
どんな人物であろうと許可無く
猫に触れることは禁じられている

お客様

何かお気になりましたか？

クラブの黒服が
声をかけてくる

ああこの尻尾なんだが
このサイズが本当に……？

さすがはお目が高い
こちらは特別なルートから
入ってきた猫でして……
少々お待ちを

ズルウ

ほおこれは...

パイプ状の拡張器で大きく口を開けたレイの肛門照明で照らされたピンクの内壁に男は見入ってしまったっている

黒服はレイの尻尾を握るとゆっくりと引き抜いた

カポッ

コポポ

はうっ

ああ...

外見は幼いですが特別な訓練を積みまっていますどうぞ感触をお確かめ下さい

いいのかい？
それでは遠慮無く...



黒服は男に尻尾バイブを手渡すとレイの尻に挿入するよう促す

くじゅっ

ジュボッ

ジュボッ

おおこれは

あうんっ

感度締め共に
特上となっております

何の抵抗も無くバイブを
飲み込むレイの尻穴
バイブの出入りに合わせて
粘液が溢れ出す



こちらを御覧ください

黒服によってレイの性器に
差し込まれた器具が
小さく口を開けていただけの
膣口を巨大な穴に変える

ビクッ

ギギ

これはすごいな...

客の男はレイの尻に顔を近づけ
ポツカリと口を開けた穴から
立ち上ってくる香りを堪能しながら
値踏みするように蠢く胎内を眺める

どんなものでも啜え込む柔軟性を持ちながら
その感度締め共に極上でございます

はは気に入った
今日はこの猫を貰おう

ありがとうございます。

それではお部屋を用意しますので
ごゆっくりとお楽しみ下さい

うあああ





体育の授業中男子達に
 用具倉庫に連れ込まれたレイは
 四つん這いになり尻を開くよう
 要求されていた

ハア

ハツ

はい……

へへじゃあオレから……
 ほらもっとマ○コ開けよ

ム
 ン
 ン



うっ

くっ

あーやっぱ
綾波のマ○コいいわー

毎日やってんのに
全然飽きねえ





くうっ

うっ

はあ〜最高お
あとでもう一回やろうかな

男子達は代わる代わるレイを犯しては
次々と精液を流し込んでいった
収まりきららずにこぼれ落ちた粘液が
体操マットに染みを作っている

プルッ

プル

グッ
グッ
グッ



ビクッ

おれはこっちにしようかな
いいよな？綾波

龟头をレイの肛門に押し当てながら
ニヤニヤと笑みを浮かべる男子
レイはそれを受け入れるしか無い

くうっ

…はこ

ビクッ

ク
ク
ク

ク
ク
ク



あああつ

いやあああつ

レイより頭一つも身体の大きい男子の
剛直がレイの肛門をめくり上げながら
激しく出し入れを繰り返す
レイは悲鳴にも似た声を上げ涙を流した
その姿に周りの男子達は
再び股間を固くさせていく

グ
ポ
グ
ズ
グ
ヌ
グ
グ
グ
グ
グ



授業の終わりを告げるチャイムが鳴る中
精液にまみれたレイは独り倉庫に取り残されていた



END



おれ女子のあそこ
初めて見た

おれも

触ってもいいんだぞ

ほんとに？

ああ
でもその前に...

ハア

ハア



ほら綾波始めろよ
皆で見えてやるからさ

はい……

くっ

ブル

ブル

んんっ

えっ？
何を……

うわっ
見ろよあの肛門
すげえ膨らんで……

ブ
ブ
ブ
ウ
ウ
ウ



うわっ
 な何してるんだよ
 綾波さんっ

うっ

うっうっ

くさっ
 なんだあの太さ...

モリッ

アッル...

ペットボトルも入る
 ケツ穴だからな

ははまよか
 ...え? ほんとに?



ゆっくり

ゆっくりやるんだ

はああ

フル

フル

ああああつ

長っ

どんだけ溜め込んでたんだ

ムキムキムキ...

見ろよあの顔

あれが気持ちいいんだぜ

綾波さん...



くじり

うわっ
やばいってこれ

あうう

大丈夫だって
綾波が自分で片付けるさ

さあお前ら
何がしたい？



ああ
このために学校来てる
ようなもんだよなあ

ズッ

ズグッ

うっ

んっ

くっ

休み時間に男子トイレに
連れ込まれては男子達の
性処理をさせられるレイ

個室の扉は開け放たれ
順番待ちの生徒達が
その行為を覗き見ていた



うはあ
やべえぐらい気持ちいい

うっ

うっ

うっ

うっ

がク

がク

次々に精液を流し込んでくる生徒達
レイは文字通り肉便器として
それを受け入れるしか無かった



みんな容赦ねえなあ
ほら優しいおれが
きれいにしてやるよ



きゃあああっ

グッ
ゴッ

はあっ

んああああっ

おお
入ったっすげえ



ふぐっ

なんだよ
面白そうだな
じゃあオレはこれで

うっ

突っ込めれば
なんでもいいんだろ？

それじゃあ
掃除になんないだろ



いやあああああ

グ
グ
グ

グ
グ
グ
グ
グ

グ
グ
グ

ああ

うああああ

ビク
ビク
ビク

ビク
ビク
ビク

すげえ汁だな
どんどん出るぞ

もしかしてコイツ
これで感じてるのか？

ハッ
まさか



放課後の教室
まだ廊下を歩く生徒もいる中
制服をめくり上げ、股間を
男子達に晒すレイ



ささぐー

マ○コ開いてみせろよ

ずっとノーパンだったのか



彼らの気が済むまで
帰らせてはもらえない
レイは黙って指示に従う

うひょー
マジで開いたぞ

あ誰か来た

誰だよ
もうやったやつ

あれなんか
汁垂れてね？



廊下を歩く人の気配
それがシンジだと知って
レイの様子が一変する

くうっ

びりびり

！
綾波最近あの転校生と
仲良さそうだよな
たまに一緒に帰ってるの見るぞ
あいつも呼んでやろうか？

なんだ碇じゃん

トロオ



珍しく拒否の言葉を発したレイの
顔は赤く、開かれた股間は透明な
粘液でびっしょり濡れていた

ダメ

碇君は違うの

おお
なんかしゃべったぞ

へえ
碇は特別なんだな

じゃあ碇は見逃してやるから
指突っ込んでオナニーして
見せろよ



はあっ

あっ



おほっ
激しい〜

すげえ
マン汁

指だけじゃ物足りないだろ
コレ使えよ

碇の笛だぞ
よく味わえよ

んぐっ

んふう

んぐっ

差し出された縦笛を
言われた通り啜える
染み付いた唾液の匂いが
レイの鼻をつく

シンジの匂い……
もっと味わいたい
レイは一心不乱に笛をしゃぶり
溢れる唾液を飲み込んでいく

うわゝ
おれのチンポも
しゃぶってくれよゝ

今いいとこなんだから
もうちょっと
我慢しろよ



あああつ

はあつ

潮を吹き絶叫しながら
シンジの笛を突き込み続けるレイ
危険を感じた男子に止められるまで
その痴態を晒し続けた

んはあああつ

がッ

おおい
声やばくねえか

ズゴッ

ズゴッ

こんなに乱れる綾波
見たこと無いな

碇か…
面白くなりそうだな



くろう

ほら今いいものやるから
ちゃんとケツ穴開いてろよ

おおいそれ
メン○スコローラやる気か？
やばくね？

量は少ないから
大丈夫だって

いくぞ

人気の無い公園で少年達に囲まれ
弄ばれているレイ
一通りレイを犯し、疲れた少年達は
悪だくみを始めた



あっ

あああああ



少年はジュースのペットボトルに
数粒のキャンディを入れると
そのペットボトルをレイの肛門に
突き立てた

爆発的な勢いで吹き出すジュースに
レイの腹がみるみる膨らんでいく

おっおい
やばくないか？

うっ
ももう抜いた方がいいかな



事態に焦った少年がペットボトルを
引き抜くと物凄い勢いでレイの肛門から
茶色の液体が噴き出す





凄まじい噴射の勢いに
 レイの肛門は大きく広がったまま
 めくれ上がった直腸までもが
 飛び出してしまっていた

はっ

はあ

ブル

レイが放尿の開放感に
 浸って落ち着いた頃には
 少年達は逃げ出していて
 誰も居なくなっていた

ブル

ギャ

ア

ア

ア

ブル



うっ

ぐっ

んんんん

ズ

ズ

グ

グ

グ

グ



せ先生
次の授業が……

あ

ズググッ

……はい

すぐ終わる
大人しくしてろ

ズググッ



ううう

くう

うう
ぐう

ト
〇
ㇿ

ジュ
ク
ㇿ

ふう
次の授業
始まっちまったな



…綾波
 保健室に連れて行ってやるから
 もう少し付き合えよ

ああっ

そんな

こっちにも
 入れて欲しいだろう？

びくびく

ニニニ

グググ

ズググ

うあああ



好きにやらしてくれるのは
いいんだが、反応が薄くて
イケねえなあ

不用心な部屋に住むレイの
噂を聞きつけた男達が時折
押し入って来ては無抵抗な少女の
身体を思う存分蹂躪した



お何だ？
何する気だよ

うあああつ

手伝ってやろうか？

ハードプレイも
OKって聞いたからな

こっちから
こう手を突っ込んで…



きゃああああつ

いやあつ

おおいしいねえ
そそる顔するじゃねえか



あつ

はは簡単に
手首まで飲み込みやがった

ほらもっと奥に入れるぞ
ここでひねった方が...

ああああつ

グ
チッ

グ
リッ
ツ

グ
チ
ユッ



うおお？
なんだこれ
何してんだよ

ああすげえ
生きてるみたい
に絡みついて
たまんねえ

はあっ

んあああっ

締まるだろ？



うおおっ
出るっぐううっ



きゃああああっ

はあっ

うあああああ

だいぶ目立って来たな

学校はしばらく休んでいいぞ

はい

では服を脱ぎなさい

…はい



予定日はいつだ？

3週間後です

大事な時期だな

貴重な時間を
無駄にしないように

はい



胸もずいぶん大きくなったな

はい……

ほうもう母乳が出てるのか

どれ……





出が良くなるように
皆によく揉んでもらうんだな

うああっ

張って苦しいんだらう？

はあっ
はっ

ビュッ
ビュッ

ビクッ
ビクッ





ううう

まったく
下品な娘だ

ズ

ツ

ズ

ツ

グ
ツ

ツ
ツ

そんな腹で
男に跨るなんてな



今すぐにでも
生まれそうじゃないか

くうっ

びく

ギョウ

おお動いてる
動いてる

だれの子かは知らんが
女ならワシがもらってやっても
いいぞ



抜け駆けは
ズルいですよ

私にも父親の権利は
あるんですから

はっはっは
分かってるよ

それじゃあ
失礼して……

うあああつ

さすがに2本は
キツイですね

そうですね
じゃあ遠慮無く

出産を楽にするためにも
穴は拡げておかんとあ



あああッ

いやああッ

ギョッ

ギョッ

グニッ

ズ

ズ

ああああッ



まずは一発

わっ

くっくっく

くっく
くっく
くっく

くっく
くっく
くっく

くっく
くっく
くっく

次々行くぞ



ほぼ裸の状態で拘束されたアスカ
その目の前には2人の男が
立っている

なんなのよ
アンタ達

これがセカンドかね
レイとは随分とタイプが違うな



アంతタまたつ

ああっそこ
触るなあ

はい

レイ
見せてみる

キ
ユッ

さてどこまで進んだか
見ものだな

男の背後から姿を表したレイは
アスカの下着を剥ぎ取ると
剥き出しになった性器に指を這わせる



レイは巨大な張り型を
持ち出すと、その先端を
アスカに向ける

ななによそれ
そんなの入るわけ……

肛門の拡張達成率60%

入るわ

おお尻にっ？
絶対無理よっ

ほう
あのレイが随分と
積極的じゃないか
面白いな



あっさりとは肛門を貫通し
体内へと入り込んでいく巨大張り型
淡々と無表情に作業を進めるレイ
だがその口元は笑みを浮かべてる
ようにも見えた

うあああ

うそっ

いやああああ

セカンドが仕上がれば
レイの負担も減らせる

なるほどな

何の準備もなくアレが入るとは……
よく訓練されてるじゃないか

グ
グ
ズグ
グ
グ

張り型の先端が結腸まで到達し
アスカの腹が盛り上がる
内臓を圧迫され思わず
放尿してしまうアスカ

んおおっ

あっ
ああ
あああ

内臓を犯されている衝撃と放尿の快感
それを男達に見られている羞恥が重なり
アスカは絶頂を迎えた

ズ
ズ
ズ

ジャ
ア
ア
ア



絶頂の余韻も引かないうちに
レイは次の責め具を用意する

ひらっ？

そのあまりの大きさに
絶句するアスカ
レイが重たそうに運んできたのは
2リットルのペットボトルよりも
大きな性具
それが小さく口を開けた
アスカの膣口に向けられる

その時はその時だ
レイ構わんやれ

あれはさすがに
無理があるんじゃないか？
せっかくのセカンドを
壊されてしまうぞ



レイは巨大な男根に両手を添えると
力任せにアスカの股間に押し込む

ぎゃあっ

はっ

きゃあああっ

ブー
ブー

ブキッ

ドッ
ゴッ

はい

レイ引き続き
頼むぞ

これ程とは
凄まじいな...

今回もおまけを用意しました。
希望される方は件名を「肉希望」として
感想やリクエスト等、一言を添えて
下記メールアドレスまでお送り下さい。
折り返しおまけをお贈りします。

奥付

性隷少女 いいなり肉便器編

発行日 2017年8月2日

サークル Faker

著者 ken

ホームページ Faker4 <http://faker.saiin.net/>

メール faker@shirayuki.saiin.net